



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第8号

目次

- 新学長候補に豊田長康教授が選考される
- 四日市市と相互友好協力協定を締結する
- 法人化問題懇話会と大学改革会議が開かれる
- 医学部附属病院が厚生労働大臣から感謝状を贈呈される

- 人文学部創設20周年記念講演会・懇親会が開催される
- 医学部で科学研究費申請についての説明会が実施される
- 「マラリア感染の分子基盤」の研究が始まる
- 「化学ワンダーランド・2003三重化学展」が開催される

お知らせ

●企画・調整室から

新学長候補に豊田長康教授が選考される



豊田長康教授

ピアノの教師をされている奥様と二人暮らし。休日には、テニスやゴルフを楽しまれるスポーツマン

三重大学学長選考会議は、書類審査、10月2日の公開討論会、10月8日の意向投票の結果を踏まえて最終審査を行い、10月14日に法人化後の初代学長候補として豊田長康医学部教授（現学長補佐）を選考しました (<http://www.mie-u.ac.jp/gakutyousen/neta/kouji/5.pdf>)。

現時点で全国最年少の国立大学長となる予定の豊田教授に抱負を語って頂きました（以下、豊田教授の談話）。

「三重大学が法人化後初めての学長候補者として、私のような若輩者を選任していただいたことは、ずいぶん思い切った決断であると感じます。それだけ、本学の改革と発展に寄せる皆様のご期待が大きかった結果であると思います。私に与えられたその大きな責任を考えますと、身の引き締まる思いがいたします。法人化後は、本学が地域で、

日本で、そして世界で高く評価されるようになることが求められています。三重大学が文字通り『地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな大学』になるように全力を投じたいと思っています。私は構成員とのコミュニケーションを大切に、現場に出向く学長になりたいと思っています。三重大学を良くするためのアイデアや、私に対するご意見やご要望を、どうぞ遠慮なくおっしゃっていただきたいと思っています。三重大学の潜在力は大きく、大学の教職員の皆様がそれぞれの分野で最高の力を発揮すれば、必ず社会から認められる大学になると信じています。大学とは、大きな夢をいだき、結果が出るか出ないかわからないことに挑戦をすることであります。どうか皆様、失敗をおそれずに、私と一緒に目標に向かって果敢に挑戦をいたしましょう。」

四日市市と相互友好協力協定を締結する

本学は、県内の主な自治体と産業、環境、教育、福祉など様々な分野で地域連携推進室（室長：菅原庸副学長）を通じて連携を深め、特色ある地域作りを目指しています。尾鷲市、上野市に引き続き10月7日には、県内最大の都市である四日市市との相互友好協力協定に矢谷隆一学長と井上哲夫四日市市長が調印しました。併せて四日市市安島の三重北勢地域地場産業振興センター（じばさん三重）内に「三重大学四日市フロント」を設置しました。コーディネーターが駐在し、企業や自治体、団体などへの技術支援をはじめ、セミナーや研究会の開催等、北勢地域の連携の拠点として活動を行っていく予定です。



井上哲夫四日市市長 矢谷隆一学長

法人化問題懇話会と大学改革会議が開かれる

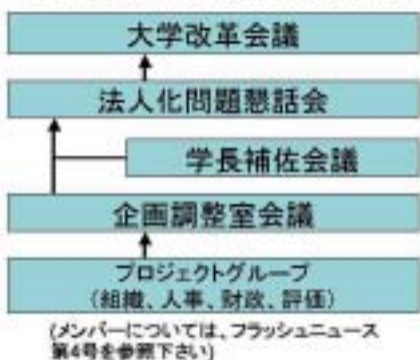
10月6日に法人化問題懇話会が、また10月9日に大学改革会議が開催されました。今回の主な検討課題は次の通りです。

- 1) 法人化後の三重大学組織および事務組織
- 2) 新組織に伴う全学運用定員（専任、兼任）の配置
- 3) その他：再任用に関する申し合せ（特任教授の審査）、副学部長の設置、副病院長等役職者手当の確保、など

法人化に係る事項については、各部局長等を通じて、逐次、構成員の意見を聴取しながら検討が進められます。なお、法人化に向けた三重大学の検討体制の概要を示せば、図のようになります。

また、法人化問題に関する全学説明会が11月27日(木)に予定されており、構成員各位のご参加をお願いします。

法人化に向けた検討体制



医学部附属病院が厚生労働大臣から感謝状を贈呈される



10月18日、津市リージョンプラザお城ホールにて、第5回臓器移植推進全国大会が厚生労働省、三重県、日本臓器移植ネットワーク等の主催で開かれ、全国から多くの代表が参加しました。大会式典では、野呂県知事、坂口厚生労働大臣（代理）の挨拶に続いて、厚生労働大臣から推進功労者へ感謝状が贈呈されました。三重大学医学部附属病院は豊橋市民病院と共に、臓器不全対策推進功労者（団体の部）に選ばれ、葛原茂樹病院長が代表して感謝状を受けました。附属病院における腎移植、角膜移植、生体肝移植の実績と移植事業への貢献が評価されたものです。

人文学部創設20周年記念講演会・懇親会が開催される

人文学部（学部長：渡邊悌爾教授）は、昭和58（1983）年4月に、当時第6番目の学部として創設され、今年で20周年に当たります。10月3日には、北川正恭・早稲田大学大学院教授（前三重県知事）をお招きした記念講演会が三

翠ホールで開催されました。記念講演は、「北京の蝶々・大学の自立」という演題で、法人化後の本学のあり方に貴重な示唆を与えられ、学生、教職員のほか、近隣の大学学長や人文学部同窓会役員など600名余りの聴衆が北川先生の講演に聞き入りました。また、講演会終了後、小ホールで記念懇親会が催され、学内外からの招待者を含め、約200名の参加があり、人文学部の「成人」に祝福と激励を頂きました。



北川正恭教授

医学部で科学研究費申請についての説明会が実施される

医学部（学部長：鎮西康雄教授）では、9月30日、「科学研究費申請」についての説明会を行いました。事務サイドの説明に加えて、先輩研究者や審査員経験者から特に若い研究者に対し説得力のある申請書作成の秘訣が披露されました。現在作成中の申請書をブラッシュアップし、多くの申請が採択されるようにと計画されたものです。約100名が参加し、熱心な質疑応答もありました。医学部ではこうした説明会を3年前から実施しております。また、科研費申請をしない人をなくすキャンペーンも続けており、1件も申請しない人は当初の35%から5%に減りました(<http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>)。

「マラリア感染の分子基盤」の研究が始まる

フラッシュニュース創刊号でもお知らせしましたが、医学部医動物学研究室の鎮西康雄教授のグループによる「マラリア感染の分子基盤」の研究に対して、科学技術振興財団「戦略的創造研究事業（CREST）」の「免疫難病と感染症」（領域総括・岸本忠三阪大前総長）から5年間（2003-2007）で総額4億3千万円の助成がみとめられ、「戦略的創造研究・CREST実験棟」（160㎡）が総合研究棟の近くに完成しました。実験室内の器具も順次整備され、ゆったりとしたスペースで実験が開始されました。



「化学ワンダーランド・2003三重化学展」が開催される

10月17日（金）から19日（日）まで県総合文化センターで「化学ワンダーランド・2003三重化学展（実行委員長：神谷寛一教授）」を開催しました。これは日本化学会と工学部との共催によるものです。日本化学会は、平成15年に創立125周年を迎えました。そこで本年を一般市民および海外の化学者に、化学と日本化学会について理解を深めていただけるようにする年「The Chemistry Year of Japan, 2003」と捉え、会を挙げて記念行事を実施しています。この催しはその一環として行われたもので、専門的な実験を分かりやすく工夫して、小中高生から保護者に実際に体験してもらいました。会場に21ブースを設置して様々な演示実験をおこない、延べ1200人以上の入場者で連日にぎわいました (<http://material.chem.mie-u.ac.jp/kagakuten.html>)。

お知らせ

企画・調整室から－教員データベースの入力が間もなく開始される

フラッシュニュース第5号でお知らせしましたが、三重大学教員データベースについては、全学レベルでのワーキンググループ（主査：畑中重光学長補佐）で、その検討が進められてきました。この度、山本皓二委員（医学部教授）が中心となって、生物資源学部で独自に構築した教員データベースシステム（WG主査：亀岡孝治教授）を全学版に拡充する作業が行われました。本年度は、全学部共通のデータベースとしてリリースし、次年度以降に各学部の独自項目の追加を予定しています。本年11月にはテスト運用を行い、問題が無ければ直ちに本格運用に入ることになります。入力作業について、教員各位のご協力をお願いします。

投稿のお願い

各種事項（法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光（hatanaka@archmie-u.ac.jp）または井上真理子（mariko-i@ab.mie-u.ac.jp）まで。場合によっては、取材に出向きます。（フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページでご覧いただけます。）